



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760

ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 1998-'99

国際ロータリー第2760地区 ガバナー 内藤 明人

事務所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-3-25 ホテルキャッスルプラザ1402号室

TEL052-581-2020 FAX052-581-1133



「この地球が、いつも若々しくあるのは自然の浄化と、
人種・国籍をこえ育まれる新しい世代の生命力ではないでしょうか。」

1998.8.20 No3 新世代のための月間

本誌は、環境にやさしい再生紙を使用しております。



21世紀を担う「新世代に期待する」

1998～'99年度 国際ロータリー第2760地区

ガバナー 内藤 明人

ロータリー発足以来始めて迎える21世紀が間近にきています。時あたかも、世界の政治、経済も大きく変わろうとしています。20世紀の自由、民主主義と共産社会主義の対立は解け、新しい組織の息吹がみえてきています。

その一つがEU（欧州経済協同体）であり、EURO（欧州通貨同盟）マネーが1999年1月1日より発足しようとしています。

日本はバブル経済、及びその後の政治経済の舵とりの失敗から、政治、経済、社会、共に歴史上希にみる大きな危機に直面しています。

我々ロータリアンは、大いにその力を発揮するチャンス到来の機と考えるべきだと思います。

本年度のレイシーRI会長は「ロータリーの夢を追い続けよう」をテーマに掲げておられます。

また、当RI2760地区の主テーマとして、青少年問題を取りあげ、RIとしては21世紀に向かって明日の日本を担う「新世代」が健全に成長して戴くことに、大いに期待しているものです。

日本の若者の大半の実状は、〇×教育、デジタル的、物理的な知識、学問と金だけに終始した心の通わない家庭及び学校教育で社会に出たものばかりです。特に夏の若者の服装、態度、動作において、これが日本の次の時代を担うものかとなげかわしい状態です。私は常に諸外国へ行っていますが、このような国は何処もありません。

我々ロータリアンとして21世紀に向かって、日本社会が健康で、幸せで、品位ある生活が出来る社会であることを望むものです。

現代の若者は、人間生活の基本である「心と物」の一つ「心」の重要性を知らないのです。同時にコンピューターが発達してきて、相手の人のこと、年上の人のこと、父母兄弟のこと、社会の人々のこと、会社得意先の人のこと等、考えることなく、データーで出てきた結果がよければよいと信じているのです。東洋も西洋も宗教が家庭生活、社会生活の中に残っています。日本は戦後、他動的と自動的と双方から宗教心、道徳心を失ってしまって「金」だけが生活に大事だと短絡しているのです。

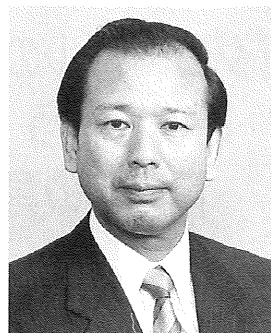
この新世代の月間にあたり、我々ロータリアンは、社会奉仕においては、例えば青少年活動や青少年国際交換において、町村における青少年健全化への催し物や薬物使用の禁止、交通ルール厳守運動等に積極的に参加したり、職業奉仕で各職場を通じて、青少年の考え方の健全化を計ろうではありませんか。

国際奉仕では、一層日本の青少年に健全な諸外国の青少年との交流の機会をもち、よい点を学んで貰えるよう、手助けをしようではありませんか。

この機会に当地区の今年のテーマである「ユーイズム」に立とうを現青少年にも大いに考えてもらい、21世紀を担う日本の新世代が、健全に大きく飛躍して戴くことを望むものです。

新世代のための月間によせて

宇宙船地球号の担い手の育成



地区青少年活動委員会委員長 坂本 康信

9月是新世代のための月間に指定されています。若い人たちの育成を担当するすべてのロータリー活動に焦点をあてることが目的であります。

1996年よりRI会長によるテーマ「新世代の育成」が強調され、1998年～'99年度RI会長のテーマ「ロータリーの夢を追いつけよう」を基に内藤ガバナーの4つの方針の中にも「新世代の育成」が掲げられていますことは、誠にすばらしい事であります。

新世代の使命(Mission)は『各ロータリアンの責務は、年齢30歳までの若い人全てを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確かなものとするために新世代の生活力を高めることによって、新世代に将来への準備をさせることである。すべてのクラブと地区は、新世代の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励されている。基本的ニーズとは：健康、人間の価値、教育、自己開発。』であります。（詳細については手続要覧第8章新世代のためのロータリー・プログラムをご参照下さい。）

さて21世紀にむかっの世界の課題は、地球的視野・規模で国際社会を担う事のできる——即ち宇宙船地球号を担うことのできるたくましく、巾広い人間性、豊富な知識、暖かい心を持った青少年の育成が重要かつ急務であります。

現代は高度技術社会・高度情報社会の到来により機械化、自動化、大型化、高速化等複雑多様な動向を示し、その結果現代特有の問題状況を生み出し、価値観の混乱、生活環境の破壊、健康の阻害、生きがいの喪失、生命の軽視等々により人間性を疎外する諸問題が多発しており、中でも青少年のイジメを始め、シンナ

一等薬物乱用、非行化、性犯罪、自律神経の異常による登校拒否などの諸問題は絶え間がありません。

このような状況を克服するためにじっと待っているのでは問題は解決致しません。世の中は前例がないからやらないことが多すぎます。しかしロータリークラブは、前例をつくることを目指し、いつも青少年に夢を描かせ、青少年自らが主体的に活動する場を積極的につくる事であります。

即ち、青少年活動は、奉仕や遊びや仲間とのふれあい等の諸活動を通して社会性、情緒性を育み、人間にとって大切なものや人間関係の在り方を学び、しかも世界、地球社会に通用する人間性を養います。

国際ロータリークラブが推進しているインターアクトクラブ・ローターアクトクラブ・ライラセミナー、各種の新世代への諸活動は、まさに宇宙船地球号を担う青少年・新世代の育成に貢献することを確認するものであります。

最後に内藤明人ガバナーは、方針の中で「新世代に大いなる光を照らそう」を掲げ、新世代の育成を強調されて、今年度青少年活動を中心に下記の事業を企画、開催される事になりました。

—新世代の育成—

青少年の物づくり体験

対 象 中学生（各クラブより5名推薦）

場 所 産業技術記念館

日 時 冬休み又は春休み

*詳細は後日各クラブへご案内いたします。

『グローバルの時代を担う 青少年の育成』

地区インターアクト(小)委員会
委員長 荻本 鐵夫



次世代を担う青少年の指導育成の重要性に多言を要しません。ロータリークラブの青少年活動の大きな柱の一つであります、インターアクト(小)委員長を仰せつかりました。よろしくご支援をお願い致します。

インターアクトクラブは毎年「国際理解」を推進するプロジェクトを実施するように奨励されています。

通信・交通の高度な発達により、一国の政治・経済・社会問題等はその国や地域だけに留まらず、一瞬のうちに全世界に影響し、人の交流もまたグローバルな時代であります。世界の人々の交流が進み、地球はますます狭くなりました。

地区には現在14のインターアクトクラブが活躍しています。それぞれのクラブが学校や地域社会で独創的なボランティア活動をしたり、国際理解に役立つようなプログラムを実施しています。

400名を越える会員の中から学校より推薦を受けた三十数名のインターアクトクラブ会員の皆さんに、国際交流によって国際理解を深め、「国際的視野や感覚」を身につけ、グローバルな時代に大いに活躍して貰う人間育成を願い、国際ロータリー第2760地区におきましては毎年(今年は第11回)海外研修ツアーを実施して参りました。

第11回海外研修派遣は7月24日から8月2日までの10日間をオーストラリア シドニーで実施致しました。

シドニー市内並びに近郊のオーストラリア人家庭に8日間のホームステイをし、生活を共にすることによってオーストラリアの文化や生活習慣を勉強し、また日本人や日本の文化を理解して貰うように一人一人が親善大使になった気持ちで家族と一生懸命にコミュニケーションするように指導致しました。

前回まで海外研修に参加したインターアクトの殆どが、「もっともっと英語を勉強しておけばよかった。」と言います。

日本人全体が「言葉の壁」のために世界の人々から取り残されることを懸念する声のある時、これからの若いインターアクトの皆さんが国際理解の為にはいかに言葉が大切であるかを、この研修によって体感されたこと自体がこのツアーの大きな成果の一つであったと思います。

地区並びにスポンサーロータリークラブのご理解、ご支援それにインターアクトクラブ活動を日ごろ支えていただいています各インターアクトクラブ顧問教諭各氏に心から御礼申し上げます。

1998-'99年度第2760地区

インターアクトクラブ海外研修派遣参加者名簿

氏 名	学 年	性 別	学 校 名	所 属 RC
津田 妃美子	2	女	豊川	豊川
高橋 進太郎	3	男	豊田工専	豊田
近藤 淳延	3	男		
伊藤 友紀	3	女	豊橋商業	豊橋
加藤 恵京	3	女		
有馬 幸伸	3	男	岡崎城西	岡崎南
兼 幸大	3	男		
富樫 夏希	3	女	名山学園	名古屋
鬼頭 み	3	女	熱田	
石原 麻衣	3	女	岡崎学園	岡崎
磯谷 衣子	2	女		
近藤 真弘	2	女	安城学園	安城
近地 聖子	2	女		
伊奈 枝里	3	女	津島女子	津島
森藤 志	3	女		
河合 昭子	3	女	一宮女子	一宮北
桜井 奈	3	女		
加藤 陽子	3	女	光ヶ丘女子	岡崎東
岩崎 奈祐	3	女		
中務 安希	3	女	阿久比	東知多
大森 綾子	2	女		
大里 祥江	2	女	千種	名古屋東
鈴小 川典子	2	女		
高橋 祥子	3	女	名短付属	名古屋東
竹内 久美	3	女		
山本 紗由	3	女		
木村 友保		男	団長	千種
森本 重鉄		男	副団長	東一宮
荻本 多田		男	アドバイザー	一宮中
加藤 辰巳		男	アドバイザー	一宮中

ライラについて



地区ライラ(小)委員会委員長 林 正彦

本年度ライラ(小)委員長を仰せつかり第7回ライラセミナーを担当させていただきます。セミナー開催に際しましては、地区内76クラブこぞって受講生の派遣と引率して下さる青少年活動委員長の出席を要請させていただきます。青少年の活発なる意見発表と友情を作り上げる様子に受講生達と共に感動を覚えられるような内容あるセミナーになることを、ホストクラブである尾西RCの会員と共に心より願っております。昨年度は国際交流をテーマに、大変素晴らしいセミナーが開催されました。受講生のレベルも回を重ねるごとに高くなり意見発表の内容も大変充実してきて本当に実りあるセミナーに育ってきました。第7回ライラセミナーは、テーマの視点を幼児から中学生まで人間形成の一番大事な教育関係にスポットをあて、幼児虐待から子供の躾、小、中学校のいじめ、校内暴力に対する指導の限界、薬物濫用などの問題に対して、今まさにその現場に直面している人、そんな経験をしたばかりの、14才～30才の若者の意見交換の場を作ることをテーマの主旨として、次の要領で開催を計画しております。ライラセミナー派遣は今や全クラブが欠くことのできない年中行事になっていることに、ご理解を賜りご支援をお願い致します。

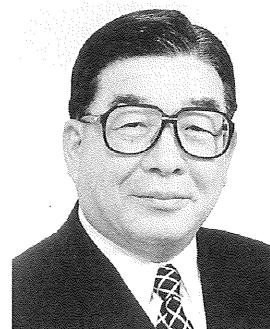
第7回ロータリー青少年指導者養成セミナー

開催日 1999年3月13日(土)～14日(日)

会場 愛知県美浜少年自然の家

場所 知多郡美浜町小野浦字宮後

重要さを増す「新世代の育成」とローターアクト



地区ローターアクト(小)委員会委員長 石川 敬

ローターアクトクラブがこの世に誕生して今年は満30年です。ローターアクトは、1968年3月13日米国ノースカロライナ州シャーロットにて世界最初のクラブが結成されて以来、その活動は広く世界の人々を共感しました。現在、世界でクラブ数=6,266、提唱ロータリー数=5,604、国家数=129、会員数=144,118人、と公表されています。当地区では、翌69年9月いち早くその趣旨に賛同し、岡崎ローターアクトクラブが誕生しました。先輩ロータリアンの先駆者的洞察力とその熱き情熱は、ロータリーの「超我の奉仕」を真に展開されたものであり、30年を迎え心より敬意と感謝を申し上げたいと思います。

ローターアクトは30年を経て大きな節目を迎えました。21世紀を迎え、激動の時代変化に対応可能な活動組織を再構築せねばなりません。クラブ創設時の原点に立ち帰り30年の時代的变化を肯定し、自信を持って独創的プログラムを積極的に展開したいものであります。昨年ジャイRI会長は「生命の活動力は絶えず変化をしています。残念なことに、こうした変化は不安を伴うことが多く、その結果行動が止まってしまいます。変化を拒否することは致命的な誤りです。なぜなら、変化と言うものは障害ではなく、動機となるからです」と、説いています。われわれが今、未来社会において真にその発展と繁栄を願うとすれば、私達の最大責務は「明日の指導者を今一人でも多く育てなければならぬ」と言うことです。まさに「新世代の育成」以外に優る道は無いようです。

第9回

インターアクト クラブ協議会

——ボランティアを通じて、積極性、友情を培う。——

地区インターアクト(小)委員会委員長 荻本 鐵夫

インターアクトクラブは、年に一度協議会を開催致します。会員同士が友情を深め、情報を交換する場です。ホストインターアクトクラブの企画により、分科会で討論致します。

今年度のホストインターアクトクラブは、一宮女子高校インターアクトクラブでありました。第9回(通算35回)RI第2760地区インターアクトクラブ協議会は、去る7月19日(日)午前9時30分より午後3時30分まで、《愛》と言うテーマのもと一宮スポーツ文化センター大ホール会議室で開催されました。

第2760地区ガバナー内藤明人様はじめ、岩間俊夫地区幹事、鈴木和雄地区副幹事、田中清隆西尾張分区代理、坂本康信地区青少年活動委員長、地区インターアクト委員並びに14インターアクトクラブの会員325名、顧問教諭27名、スポンサーロータリークラブ会長さんはじめ関係ロータリアン194名、合計561名の参加を得まして大盛会でありました。

本年度協議会テーマは《愛》。他人にたいする温かい心(warm heart)、誰かのことをとっても気にかける心(care)にもとづき6つの分科会で、体験学習を通じて奉仕と思いやりの心を養い大きな成果を得ることが出来ました。

「開会式」

一宮女子高校インターアクトクラブ桜井由梨副会長の司会により、牧野佐保会長の点鐘、桜井由梨副会長の開会宣言、国歌斉唱、インターアクトクラブの歌、一宮女子高校インターアクトクラブ牧野佐保会長並びに一宮北ロータリークラブ瀧義孝会長より歓迎の挨拶、松原幹彦(一宮北RC)インターアクトクラブ協議会実行委員長により出席地区役員、委員及び各ロータリークラブの紹介があり、続

いて一宮女子高校インターアクトクラブ吉田奈津美幹事より参加インターアクトクラブの紹介がありました。

第2760地区内藤明人ガバナー、坂本康信青少年活動委員長、一宮女子高校の堀尾敬介校長先生よりそれぞれ有意義かつ感動的なご挨拶を頂きました。

「参加インターアクトクラブ会員」並びに顧問

豊川高校 (25名)	豊田工専 (14名)	豊橋商業 (18名)
岡崎城西 (19名)	名古屋 (14名)	岡崎学園 (46名)
安城学園 (23名)	津島女子 (41名)	一宮女子 (38名)
光ヶ丘女子 (38名)	阿久比 (18名)	千種高校 (20名)
名短付属 (24名)	美和高校 (14名)	

参加インターアクトクラブ14クラブ 生徒登録数325名
顧問教諭27名

今年度の「地区協」は、英語検定の日と重なり参加人数に影響が出ました。

「音楽会」

1Fスポーツフロアで、10:30~11:00まで一宮太鼓保存会の皆さん(男女12名)による《和太鼓》の演奏がありました。大小十数基の太鼓が一斉に打たれると一種の感動を覚えました。地元の真清田神社の中にある(服織神社)に奉納される「織り姫太鼓」、一宮の七夕祭りをイメージした「祭り太鼓」、最後に「木曾川清流打ち」と続けました。

今回は(風船を膨らませて、自分の体に触れさせて音を聞き、耳でなく体で音楽を感じてみる)体験も致しました。

最後に会場内からインターアクトの希望者が壇上に上り、太鼓打ちを楽しみました。





「分科会」11:15~12:30

今度は、6つの分科会に別れて実施されました。

第1分科会——「お年寄りと遊ぼう」

協力 一宮市老連女性部のみなさん

第2分科会——「盲導犬とふれあうってどんな感じ？」

協力 中部盲導犬協会

第3分科会——「リサイクルに挑戦しよう」

協力 一宮女子高校教諭 奥村明美さん

第4分科会——「手話で歌おう」

協力 講師石原静枝さん・手話サークル「ひまわり」のみなさん

第5分科会——「国境を越えてゲームで遊ぼう」

協力 一宮女子短期大学ユネスコのみなさん

第6分科会——「車椅子を体験しよう」

協力 一宮市社会福祉協議会

分科会にはインターアクトクラブ会員が、次のように別れて勉強しました。

第1分科会39名 第2分科会54名 第3分科会41名 第4分科会82名 第5分科会52名 第6分科会57名

内藤ガバナー、岩間地区幹事、鈴木地区副幹事、田中西尾張分区代理、坂本地区青少年活動委員長、地区インターアクト委員のみなさんはスポンサーロータリークラブ瀧会長、松原実行委員長等の案内をうけ各分科会の部屋を見て回られました。

「友愛の広場」

参加ロータリアンの休憩並びに友情の場が特設されました。

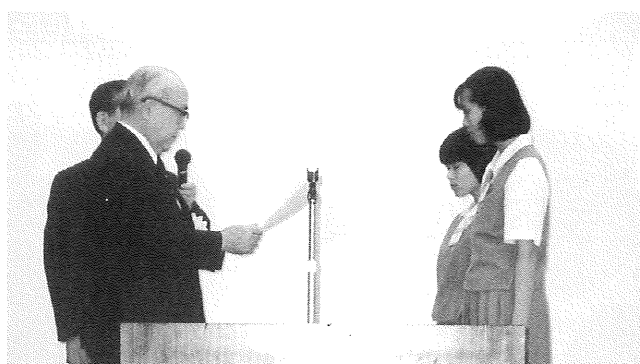
「昼食会」

時節柄スポンサーロータリークラブの食事担当の長谷川委員長、委員の皆さんは格別神経を使われました。

「海外研修派遣壮行会」14:00~14:40

第11回インターアクトクラブ海外研修派遣団の壮行会が、阿久比高校インターアクトクラブ顧問で、今回副団長を務められる森重統先生の司会により行われました。

全員が壇上の椅子に座り、地区インターアクト委員長の荻本鐵夫より「今回の参加者総員41名（インターアクトクラブ会員36名、団長、副団長、アドバイザー2名、オブザーバー1名）が去る6月20日~21日、7月11日~12日の二回にわたる一泊二日の事前研修会に於いて、内藤ガバナー



の有意義な講話を聞かせて頂いたこと、関係ロータリアンの話を聞いて勉強したこと、MARKとDAVEと言う二人による90分の英会話レッスンをしたこと、インターアクトクラブ会員同士が友情の輪を広め組織作りをしたこと、必要な情報を会員に伝え準備万端整い7月24日名古屋空港で「結団式」の後、元気に出発し、シドニー近郊のオーストラリア人家庭にホームステイすることによって語学の研修をし、外国の生活を実感し文化の違いを肌で感ずると同時に、インターアクトクラブ会員自身や家族のこと、日本の文化を相手にも理解してもらいインターラクティブな国際理解活動をし、一生心に残る感動体験をして8月2日に全員元気に帰国する」と挨拶。

内藤ガバナーより「全員が体に十分注意し、海外研修の目的を達成するよう」心温まる激励のお言葉を頂きました。

第11回の海外研修派遣団の団長は、千種高校インターアクトクラブ顧問教諭の木村友保先生です。木村団長よりインターアクトクラブの参加会員並びに同行するスタッフの紹介がありました。

「閉会式」

内藤ガバナーより講評があり、荻本地区インターアクト委員長より閉会の挨拶：次年度第10回インターアクトクラブ地区協のホストを委嘱されます光ヶ丘高校インターアクトクラブ並びにスポンサーRC岡崎東RCの紹介を致しました。

光ヶ丘高校インターアクトクラブの打越菜津さん、木村文恵さんそれに岡崎東ロータリークラブ会長の畔柳寛次さんが内藤ガバナーより《委嘱状》を受けられました。

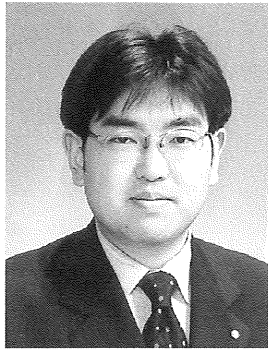
最後に、吉田奈津美一宮女子高校インターアクトクラブ幹事による閉会宣言、牧野佐保会長による点鐘により、第9回（通算35回）国際ロータリー第2760地区インターアクトクラブ地区協が大成功を収めて閉会致しました。

第9回インターアクトクラブ地区協をホストされました一宮女子高校IAC会員並びに顧問教諭、それを支えて頂きましたスポンサー4ロータリークラブ、一宮北・一宮・尾西・一宮中央の会員の皆さん、特に主管スポンサークラブの一宮北ロータリークラブの松原実行委員長、広瀬副委員長・委員・会員の皆さんに、周到な準備をして頂きまして感動的な協議会を開催して頂きましたこと心より感謝申し上げます。

内藤ガバナーをはじめ地区役員、委員の皆さんのご支援に対して御礼申し上げます。

今年度の抱負

RI第2760地区ローターアクト
地区代表 石田 雄三



今年度、国際ロータリー第2760地区ローターアクト地区代表を務めさせていただきます、岡崎ローターアクトクラブの石田雄三です。

新しい年度を迎えて、我々ローターアクトクラブは、アクター全員一丸となって準備を始め、無事にスタートすることができました。

今年度は、ローターアクト地区テーマを、「break-

through ACT」としました。我々がアクト活動を進めていく段階では、様々な問題が生じてきます。会員増強の難しさ、仕事との両立、金銭面での問題などいろいろあります。しかし、そのような場面に遭遇したときに、(1)break [打解策・最良策をみつける] して、(2)through [乗り越える] していき、常に前向きにアクト活動していきたいと思い、このようなテーマを設けました。

ロータリークラブの御協力により、奉仕活動や親睦活動など、与えられたチャンスをつかみ活かすのは、我々ローターアクターです。今年度は、アクター一人一人が、自分から参加し、意見を発信し、考えを行動に移して、積極的にアクト活動をしていきたいと思えます。

今年度一年間、我々ローターアクターに、一層のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

記念例会報告

35周年記念例会報告

稲沢RCの創立35周年記念例会が、平成10年7月11日（土曜日）午後4時、稲沢市勤労福祉会館で開催されました。第2760地区内藤明人ガバナーの代理として岩間俊夫地区幹事、田中清隆西尾張分区代理、スポンサークラブ熊沢一雄一宮RC会長を始めとする近隣RCのご来賓と稲沢市長を始めとする地域関係のご来賓と当クラブ会員70名、合計約100名が出席して開催されました。稲沢RCは昭和38年7月11日に一宮RCをスポンサーとして創立され、稲沢市と平和、祖父江の二町を区域として活動しております。尚、当クラブは毎年「ロータリーの森」への植樹や高校生と共に考える「交通安全シンポジウム」などは、悪化する環境問題や失われつつある若者のモラルに対して、今ロータリーが提唱している環境保全や、次世代を担う青少年の心のケア等を実践、正に時を得たすばらしい事業だと自負するものであります。

第一部の記念式典では黙想、物故会員の黙祷後記念事業の披露、並びに感謝状贈呈が行われ、その後ガバ

稲沢ロータリークラブ会長 伊藤 強平

ナー、稲沢市長からのご祝辞を頂き、そしてオーストラリア カウラRCからのメッセージが披露されました。第二部では分区代理の乾杯に始まりアトラクションなどでなごやかな雰囲気の中に、また盛大に行われ楽しい一時を過ごし最後はスポンサークラブ一宮RC会長の万歳三唱で締め括りました。



(収入の部)

ホスト：豊田西ロータリークラブ

項 目	予算額	決算額	備 考
地区助成金	1,100,000	1,100,000	
参加クラブ登録料	19,200,000	19,068,000	1,589×12,000円
米山記念奨学会補助金	350,000	375,000	
雑 収 入	200,000	224,008	祝儀 224,000円 利息 8円
ホストクラブ負担金	100,000	100,000	
合 計	20,950,000	20,867,008	

(支出の部)

項 目	予算額	決算額	備 考
1. 指導者会議	1,000,000	857,908	リーダー、アドバイザー会議、旅費、交通費
2. 地区協議会	16,000,000	15,980,324	
交通関係費	(1,500,000)	(1,476,750)	シャトルバス利用代金、ガードマン
会場費	(1,200,000)	(1,017,120)	会場室料
昼食費	(6,500,000)	(7,023,000)	割り弁当
友愛の広場	(3,200,000)	(2,579,321)	呈茶、ジュース、おにぎり、サンドイッチ他
会場設営費	(2,000,000)	(1,878,145)	会場設営及び備品借用料他
会場運営費	(1,600,000)	(1,005,988)	分科会看板、登録用名札他
3. 庶務関係	1,700,000	1,957,200	プログラム作成費、計画概要書等作成費他
4. 実行委員会	2,000,000	1,861,847	
会議費	(800,000)	(702,253)	実行委員会会議費他
事務費	(1,200,000)	(1,159,594)	記録、通信、及び事務局人件費他
5. 雑 費	250,000	209,729	事務用消耗品他
合 計	20,950,000	20,867,008	

第1回 地区諮問委員会開催

去る7月17日(金)に諮問委員会が開かれ、下記委員会の委嘱が決定しました。



1. 1998～'99年度 意義ある業績賞選考委員会

委員長 蜂谷 弘道 (P.D.G)
 委員 石川 和昌 (P.D.G)
 委員 松本 宏 (P.D.G)
 委員 犬飼 栄輝 (P.D.G)

2. 地区大会関連委員会

○信任状資格審査委員会

委員長 松本 宏 (P.D.G)
 委員 加納 泉 (P.D.G)
 委員 蜂谷 弘道 (P.D.G)

○選挙管理委員会

委員長 犬飼 栄輝 (P.D.G)
 委員 盛田 和昭 (P.D.G)
 委員 宮地 信尚 (P.D.G)

○大会決議委員会

委員長 石川 和昌 (P.D.G)
 委員 高沢 隆 (P.D.G)
 委員 神戸 政治 (P.D.G)

○登録委員会

委員長 高橋 謙一 (名古屋東南)
 副委員長 近藤 信之 (名古屋東南)
 委員 片田 益男 (名古屋東南)
 委員 福島 隆雄 (名古屋東南)
 委員 水野 恒平 (名古屋東南)
 委員 白木 良彦 (名古屋東南)
 委員 伊藤 昌和 (名古屋東南)
 委員 伊藤 求馬 (名古屋東南)

○地区大会企画委員会メンバー

ガバナー 内藤 明人 (名古屋西)
 研修リーダー 神戸 政治 (あま)
 パストガバナー 加納 泉 (名古屋中)
 パストガバナー 犬飼 栄輝 (名古屋東南)
 ガバナーノミニ 野村 重彦 (刈谷)
 地区幹事 岩間 俊夫 (名古屋西)

前地区幹事 片山 主水 (名古屋東南)
 西名古屋分区代理 (ガバナー補佐) 春日 良平 (名古屋瑞穂)
 地区副幹事 安藤 友一 (名古屋西)
 地区副幹事 村瀬雄一郎 (名古屋西)
 次期地区幹事 内藤 耕造 (刈谷)
 大会実行委員長 各務 芳樹 (名古屋東南)
 大会実行幹事 宮崎 薫 (名古屋東南)
 前大会実行委員長 広中 康男 (田原)
 前大会実行幹事 石原 道規 (田原)
 次期大会実行委員長 平林 米司 (犬山)
 次期大会実行幹事 伊藤 英男 (犬山)

3. 財団法人ロータリー米山記念奨学会理事・評議員

・1998～'99年度 第2760地区理事
 田中 徹 (半田)
 ・1998～'99年度 第2760地区評議員
 犬飼 栄輝 (名古屋東南)
 内藤 明人 (名古屋西)
 野村 重彦 (刈谷)

4. 1998～'99年度 地区事務所運営委員会

カウンセラー 田中 徹
 (地区米山奨学委員会カウンセラー)
 委員長 片山 主水 (前地区幹事)
 副委員長 岩間 俊夫 (地区幹事)
 副委員長 内藤 耕造 (次期地区幹事)
 委員 加藤 凱也
 (地区米山奨学委員長)
 委員 矢島 茂
 (地区ロータリー財団委員長)
 委員 神田 憲
 (地区青少年交換(小)委員長)
 委員 杉浦 三郎
 (地区国際奉仕副委員長)
 委員 鶴田 欣也
 (地区青少年活動副委員長)
 地区事務所担当 藤本 博之 (地区副幹事)

1998～'99年度

地区役員及び会長・幹事懇談会開催報告

地区副幹事 児山 國男

7月17日(金)ナゴヤキャッスルホテル青雲の間において新年度の地区役員会長・幹事懇談会が開催されました。

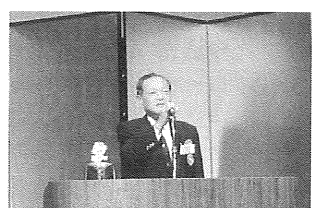
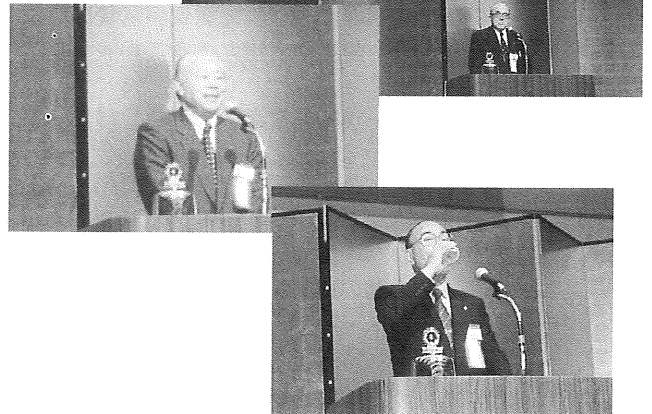
当日は、ガバナー、パストガバナー、ガバナーノミニ、分区代理(ガバナー補佐)、地区幹事、地区副幹事、地区会計長、地区会計監事、地区補佐、カウンセラー、地区委員長、そして地区内76クラブの会長・幹事、加えて片山前地区幹事、山田、鈴木前分区代理、次期地区幹事、次期地区会計長、次期地区会計監事ら、総勢二百十余名の参加を得て、和やかに開催されました。

昨年度と同様に、ガバナー、分区代理(ガバナー補佐)、地区正副幹事は、今年度のロータリーカラー、ブルーのお揃いのブレザーを着用、初のお披露目を兼ねると共に、この一年間のチームワーク、団結を改めて確認致しました。

夕刻五時半、岩間地区幹事から出席者の紹介が済んだあと、既に恒例として定着した、20秒間の「黙想」で気持を集中、さわやかにスタート致しました。最初に、内藤ガバナーから、今年度のRI会長テーマ、ガバナー方針を再度確認すると共に、新設された「ガバナー賞」に果敢にチャレンジしていただきたい旨の熱い意思表示が改めて行われました。また分区代理には「ガバナー補佐」としての意識を、76クラブの会長・幹事には、実のある「ガバナー訪問」となる活力あるクラブ運営を期待する旨の挨拶がありました。続いて

野村ガバナーノミニの祝辞のあと、加藤南尾張分区代理、神野地区資金委員長、若松名古屋RC会長から分区代理、地区役員、会長・幹事をそれぞれ代表して挨拶がありました。

地区研修リーダーの神戸パストガバナーの音頭で乾杯、懇親会がスタートしました。今年度は八つの分区にそれぞれ担当の地区副幹事が割り振られており、担当分区の分区代理、会長・幹事のみなさんと和気藹々に、親しく交流、懇親を深めていました。宴も半ばでもありましたが、岩間地区幹事の挨拶で盛大の内に幕を閉じました。



計報



謹んでご冥福をお祈り申し上げます

安藤 友一様 (名古屋昭和RC) 7月5日

北村千之進様 (守山RC) 7月18日

近藤 貞雄様 (知多RC) 7月19日

大原 光男様 (豊橋ゴールデンRC) 7月22日

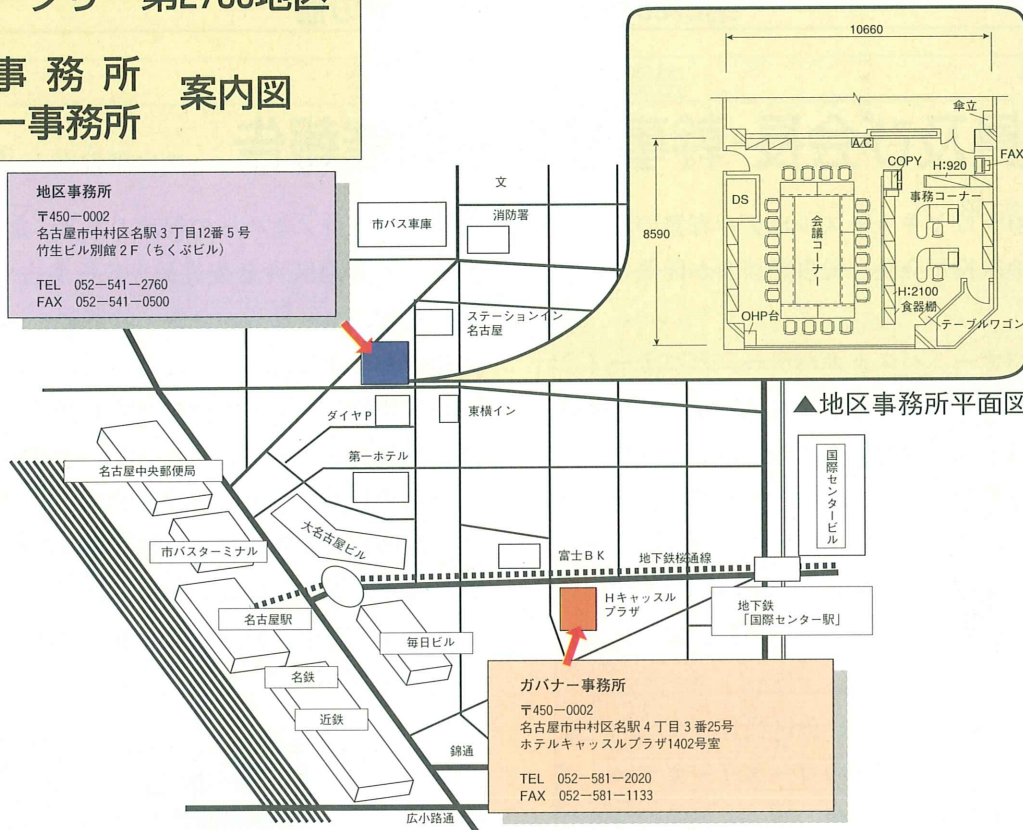
河合 克昭様 (名古屋中RC) 7月23日

鈴木 一幸様 (岡崎南RC) 7月28日

国際ロータリー第2760地区

地区事務所 ガバナー事務所 案内図

地区事務所の平面図は下記の如くなっております。
会議で利用できます。(約20名~25名程)



文庫通信 130 号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料(貸出可)など、1万7千余点を収集・整備し、皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

読んでおきたい本 その1

- ◎「ロータリーの理想と友愛」ポール・ハリス 米山梅吉訳 1978 295頁
[申込先 ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「ロータリーへの私の道」ポール・ハリス 1984 102頁
[申込先 サービス・センター TEL (03) 3355-5391]
- ◎「ロータリーの創設者ポール・ハリス」ポール・ハリス 米山梅吉訳 1986 157頁
[申込先 京都西南R.C. TEL (075) 341-5551]
- ◎「過ぎし時に敬意を表して: ポール・ハリス語録」R.I. 1996 147頁
[申込先 サービス・センター TEL (03) 3355-5391]
- ◎「ロータリー・モザイク」ハロルド・T. トーマス 松本兼二郎訳 1977 327頁
[申込先 ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「ロータリーの本」森光繁 1978 126頁
[申込先 今治R.C. TEL (0898) 22-3933]
- ◎「米山梅吉と日本のロータリー(抄)」長井盛至 1983 31頁
[申込先 ロータリー文庫(コピー)]
- ◎「素顔のロータリー」三宅徳三郎 1984 92頁
[申込先 高松R.C. TEL (0878) 23-3555(代)]
- ◎「ロータリーあれこれ」笹部誠 1996 174頁
[申込先 川崎R.C. TEL (044) 233-8903]

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506

開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日